

中長期事業計画 Chuo Vision 2025

中央大学は創立130周年を機に、今後10年間の「中長期事業計画 ChuoVision 2025」を2015年10月に策定しました。「世界に存在感のある大学」を目指していくうえでのMission(使命)及び、5つのvision(将来構想)のもと、4つのapproachを中心に事業を展開しております。

しかし、計画策定時から令和の時代にかわったこの4年間あまりに、社会の動向および大学を取り巻く環境について大きな変化がありました。入学定員管理の厳格化、東京都特別区(23区)の定員規制に関する法律の施行、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)や、私立学校法の改正に合わせて制定された行動規範「私立大学ガバナンス・コード」等への対応が急務となっています。

その中で、計画初年度である2016年から2019年10月現在までの取組みおよびvisionに関連する2020年度の重点政策をご紹介します。

世界に存在感のある大学へ

中央大学 中長期事業計画

Chuo Vision 2025

MISSION		
グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成		
VISION		
教育 Education 社会の期待に応え、人類の福祉に貢献する力を備えた人材を育成するための総合的な実学教育の拠点の形成	研究 Research 地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する専門かつ学際的な研究の推進	社会貢献 Contribution to Humanity 特色ある教育研究に立脚した社会連携とヒューマンネットワーク拠点の形成
キャンパス Campus 人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築	経営 School Management 本学の継続的な事業活動を支える揺るぎない経営基盤の確立	

建学の精神

「実地応用ノ素ヲ養フ」

2020年度重点政策策定の基本的な考え方

教育 研究

1. グローバル化や少子高齢化の進展、および、Society5.0の到来による社会構造の変化に対応し、健康スポーツ、AI・データサイエンスなどの新しい領域にウイングを広げた教育研究を実現する組織と制度の整備に向けて、具体的な計画を策定し実行する。

研究

2. 全学的な研究力をより一層向上させるために、外部資金を活用した研究活動財源を確保するとともに、学際融合コンソーシアムなどの研究推進体制を構築する。

社会貢献

3. 「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けた取り組みを可視化に努めて推進し、「ダイバーシティ」を推進する組織を整備する。東京オリンピック・パラリンピックを契機として、全学一体となったスポーツ振興を社会連携によって強力に推進する。

キャンパス

4. 各キャンパスの特性をいっそう活用し、各キャンパスの連携を強化して、地域連携重視と学生起点のキャンパス整備を推進する。

経営

5. 各種の施策を迅速に推進できる大学ガバナンスと教学マネジメントを整備し、財務構造を強化する。新規事業計画(キャンパス整備計画等)への支出に対応して、各種収入(補助金、事業、寄付金等)の増加と経常的経費の適正化を図り、教育研究経費と学生支援経費の支出を高める財務構造の構築に向け、計画を策定し、実行する。

4つの Approach

1. 教育組織の改編・創設
2. キャンパス整備
3. グローバル戦略
4. スポーツ振興事業

Approach 1

教育組織の改編・創設

Establishing New Faculties

学部増設による総合大学としての魅力向上

現代社会が直面する課題に応え、かつ総合大学としての更なる魅力向上を目指して、教育研究体制の再編を検討しております。2019年4月に2つの学部を開設し、8学部26学科を有する総合大学として、更なる魅力向上を目指します。

- 2019年4月、国際経営学部を多摩キャンパスに開設(入学定員300名)しました。グローバル共生社会における企業活動の担い手として、国際社会を舞台に活躍できる世界基準のビジネスリーダーを育成します。



- 2019年4月、国際情報学部を市ヶ谷田町キャンパスに開設(入学定員150名)しました。『情報の仕組み』と『情報の法学』を融合し、国際的サービス・政策を実現できる人材を養成します。



- 健康スポーツ科学部(仮称)については、構想の必要性は承認しつつ、その開設に向けた手続きに着手することは再度延期することとなりますが、健康スポーツ分野の教育に関する新たな制度の活用、外部との連携等の方策を通じて大学スポーツの振興を図ります。

Approach 2

キャンパス整備
Campus

2大キャンパス体制の形成

多摩キャンパスと都心キャンパスのそれぞれの魅力を明確化させ、多摩キャンパスは緑豊かで施設設備の整ったグローバルキャンパスを目指し、都心キャンパスは後楽園キャンパスを中心として先進的な教育研究とプロフェッショナル養成に注力したキャンパスを目指してまいります。

① 多摩キャンパス (キャンパス整備:2021年目標)

多摩キャンパスの将来像は「豊かな自然環境のナチュラルなイメージとダイバーシティに富むグローバルキャンパス」としてまいります。そして、モノレール駅付近は、学修支援に加え情報発信・ダイバーシティ・グローバルゾーンと位置づけています。

- グローバルな教育研究が可能となる施設設備を整えたグローバル館と、オンキャンパスで「生活」と「教育」が融合する国際教育寮を、2020年4月共用開始に向け建設中です。

国際教育寮は、外国人留学生や研究者が食と住の不安を感じることなく日本に滞在できる環境を整備するとともに、日本人学生との交流が日常的に行われるスペースが充実しています。

- 学部横断的な教育研究施設となる「学部共通棟(仮称)」を2021年4月共用開始予定。2019年10月現在、建設予定地付近の解体等を行っています。



グローバル館・国際教育寮外観 (イメージ)



グローバルラウンジ (イメージ)

ハワイエララウンジ (イメージ)

コミュニティキッチン (イメージ)

国際教育寮・個室 (イメージ)

- 【グローバル館】
施設規模: 地上7階建、およそ2,900㎡(延床面積)
館内施設: 1階 サービスヤード
2.3階 多目的教室
4階 グローバルラウンジ、大学史展示コーナー、祈禱室(モノレール駅コンコースデッキと接続)
5.6階 多目的教室
7階 多目的ホール(150人規模)
国際会議や各種行事に対応可能(同時通訳室など)

- 【国際教育寮】
施設規模: 地上9階建、およそ7,400㎡(延床面積)
館内施設: 50ユニット300室 研究者用住居2室
1階 エントランス、管理人室、メール室、ランドリー室、外国人研究者ゲストハウス2室
2~9階 学生宿舎
5階 コミュニティラウンジ、多目的スペース、キッチン、学生宿舎
学生宿舎ユニット内の構成は、個室6名分、コミュニティスペース(ミニキッチン付)、シャワーブース1、トイレ2

- 4号館(サークル棟)も新学部設置に伴い、一部施設改修整備を実施。



4号館 アカデミックターミナル

4号館 ラウンジ

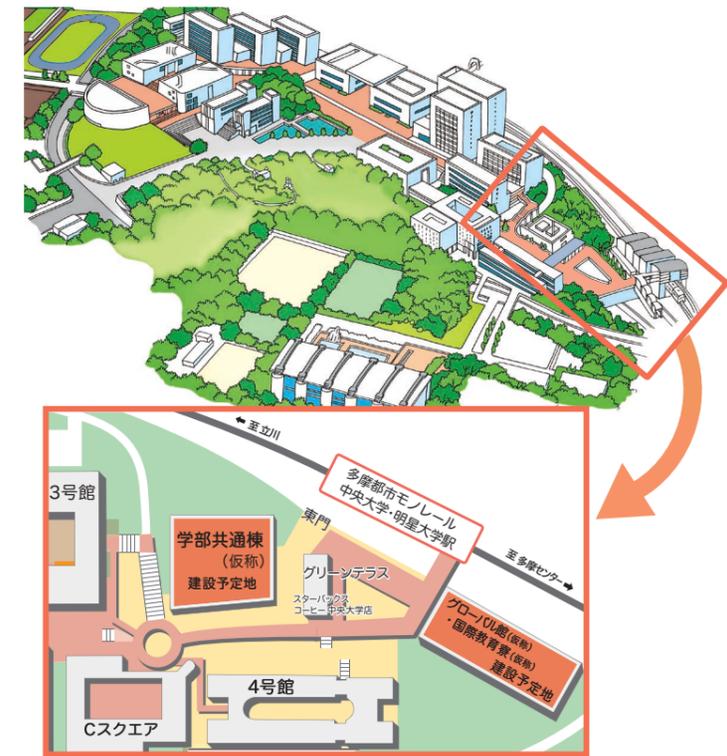


モノレール駅側からの学部共通棟外観イメージ



学部共通棟内装(中央広場)イメージ 3号館側からの学部共通棟外観イメージ

- 【学部共通棟】
施設規模: 地上6階建、およそ12,000㎡(延床面積)



建設予定地

② 都心キャンパス (キャンパス整備:2023年目標)

■ 法学部の都心展開について

文京区大塚一丁目(最寄り駅:地下鉄茗荷谷駅)の新校地と後楽園キャンパスへの移転が確定する見通しとなりました。文京区大塚一丁目の新校地については、2019年3月末に関係機関との契約締結が完了。新敷地内の建設に係る基本計画においては、法学部の使用施設のほか、地域貢献として文京区施設も予定しています。

今後も、関係機関と調整の上、2023年度からの移転に向けて引き続き準備を進めていきます。



新キャンパス 外観イメージ案

■ 大学院法学研究科の移転について

大学院法学研究科については、2023年度から文京区大塚一丁目(最寄り駅:地下鉄茗荷谷駅)に校地を変更し、教育研究活動を展開していきます。

- 2019年4月、市ヶ谷田町キャンパスの国際情報学部(入学定員150名)の開設に伴い、施設の改修を行いました。

■ 後楽園キャンパス近隣地の取得について

都心キャンパスでは、後楽園キャンパスを中心として先進的な教育研究とプロフェッショナル養成に注力したキャンパスを目指す中で、当該キャンパスの機能拡充を図るべく近隣地の取得を検討していた結果、この度、文京区春日1丁目の物件を取得するに至りました。今後、関係機関と調整の上、引き続き準備を進めていきます。



市ヶ谷田町キャンパス 入口



市ヶ谷田町キャンパス ラウンジ

■ 駿河台記念館（創立100周年記念館）の建て替え並びに、
専門職大学院法務研究科及び戦略経営研究科の移転について

駿河台記念館については、2023年度までに建て替えを行い、専門職大学院法務研究科及び戦略経営研究科を移転させ、教育研究施設として展開するほか、全学的な利用にも供するとともに、学生会本部機能、その他現在収容されている諸機関の利用に供することになります。

今後の運用スケジュールについては追ってホームページでお伝えします。なお、駿河台記念館建て替えに係る一時移転先については、千代田区一ツ橋 2-6-3 一ツ橋ビル 4階です。



■ 情報発信と地域コミュニティの機能を備えた新たな空間の創出

2017年 10月 13日、多摩キャンパスグリーンテラス 3階の一角に「スターバックスコーヒー中央大学店」がオープン。

2019年 9月 26日には、後楽園キャンパス 2号館 1階に「Chuo University KEY'S CAFÉ」がオープンしました。

それぞれ広い窓に面した解放感あふれる客席エリアには、中央大学のさまざまな情報をお伝えするガイドブックや広報誌を設置し、学生や職員だけでなく、学会やイベント等で来校されるお客様のミーティングや待合スペースとしても広くご利用いただけるよう、快適で居心地のよいキャンパス環境の整備に取り組んでいきます。



多摩キャンパス スターバックスコーヒー



後楽園キャンパス KEY'S CAFÉ

Approach 3

グローバル戦略
Global Initiatives

グローバル化の推進

グローバル人材であった英吉利法律学校創立者たちの「建学の精神」を引き継ぎ、世界に存在感のある Chuo University を目指し、改革を推進しています。

■ 留学生受け入れについて

2025年までに、年間受け入れ人数 1,000人を目指し、大学全体でさらに教育研究体制を強化しています。2019年に開設した国際経営学部（入学定員 300名）では、設置科目の 7割以上が外国語（主に英語）により行われ、中央大学では初めて、卒業に必要な単位の全てを英語で行われる科目で修得することが可能となります。

■ 学生の海外派遣について

2025年までに、年間派遣数 2,200人を目指し、大学全体でさらに教育研究体制を強化しています。2019年度より開設した国際経営学部（入学定員 300名）では、海外短期留学を必修化。また、長期海外留学後帰国した学生に対するキャリア支援も充実していきます。

■ 学年暦における授業時間割等の見直し

2019年度から8学部ともに授業時間割を変更（100分×14週）し、1時限目の開始を 9: 00に共通化。受け入れ、派遣、双方の留学支援や、アクティブラーニングを取り入れるための教育手法の導入を目的としています。



■ グローバル・プロフェッショナルの育成

すべての科目を英語等で教える全学的教育プログラム「グローバルFLP (Faculty-Linkage Program)」を 2018年度開設。本プログラムは、実践的要素と実務的海外体験を取り入れた外国語による全学的な国際化教育プログラムで、1年次後期以降の学部生に提供することを目的としています。

■ 「国際共同学位」の構築

韓国の成均館大学とそれぞれの大学院法学研究科の学位を授与する「国際共同学位（ダブル・ディグリー）」を 2018年度開設しました。

台湾の国立中央大学と大学院理工学研究科との間で協定締結を行い、2018年度「国際共同学位（ダブル・ディグリー）」を開設しました。

■ 「国際共同研究ネットワーク」の構築

文部科学省私立大学研究ブランディング事業に申請し、下記のとおり 2016年度・2017年度、2年連続でともにタイプ B【世界展開型】に採択されました。本学は、本事業に採択された 2つのテーマをもとに、大学間連携、産学官連携や国際共同研究等を推進し、学術交流を活性化させ、若手研究人材の育成や研究成果の社会還元を積極的に行い、新しい価値・技術・サービスを社会に創出しつづけます。

2016年度

「アジア太平洋地域における法秩序多様性の把握と法の支配確立へ向けたコンバージェンスの研究」
【代表者】佐藤 信行（法務研究科 教授）

2017年度

「超スマート社会の実現に向けた沿岸都市における防災プラットフォームの開発」
【代表者】有川 太郎（理工学部都市環境学科 教授）

Approach 4

スポーツ振興事業
Sports

スポーツ振興事業

選手の育成強化による実績の向上と、スポーツに関する伝統の維持・発展の両面を重視し、大学としてスポーツ振興を図るための独自の施策を展開します。

スポーツ振興事業の目標

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに 20人以上の本学代表選手（在校生・卒業生）の派遣を目指しています。
- 箱根駅伝は 2020年までに 5位以内、2025年までに優勝を目指します。

推進体制

- 2016年 4月にスポーツ振興・強化推進室を設置し、その下に「オナーズ部門」「スポーツ振興部門」の 2つの専門部門を設けて中期的・長期的な強化策を一体的に推進できる体制を整えました。
- 「オナーズ部門」においては、優秀選手の確保・育成のための強化策を実施し、オリンピック・パラリンピックへの選手輩出に向けた支援、駅伝強化計画の策定・実施などに取り組んでいます。支援方針として「選手への支援」と「優秀選手の獲得・育成・強化の環境向上」を掲げ、奨学支援、合宿遠征費の補助、専門スタッフ（トレーナー、栄養士等）と連携したトレーニング、スポーツパフォーマンス測定機器の整備（アスリートパフォーマンスラボ：通信教育部事務室前）などの支援プログラムを実施しています。



アスリートパフォーマンスラボ

- 「スポーツ振興部門」においては、本学スポーツの伝統の維持・発展のため、体育部会が主要競技会での優勝を果たせるよう強化支援に取り組むことで、中大スポーツ全体の競技力向上と、学生、卒業生、教職員等すべての構成員の帰属意識の向上を図っています。

- 大学スポーツ協会 (UNIVAS) に加盟。全学スポーツ振興連携協議委員会を設置し、UNIVAS が取り組む多くの課題に、大学全体として取り組むことにしています。